

IIS NEWS

☆講 演☆

◇教授 久保田 広 “Recent Studies on the Polarizing Microscope” National Bureau of Standards, Washington D. C. (1957. 10. 25)

☆寄 稿☆

◇教授 久保田 広 “Experiment on the Sensitive Color” Jour. Optical Soc. America 47, 12, p. 1121 (1957)

◇助教授 山田嘉昭 「板の加工性試験法」 機械の研究 10, 1, 169~176 (1958. 1)

◇助教授 山田嘉昭 技官 輪竹千三郎外 2 名 「継目無鋼管の圧延作業の研究(II)——プラグ・ミルにおける諸荷重の測定と解析——」 鉄と鋼 44, 1, 15~22 (1958. 1)

◇助教授 安藤良夫 「原子炉用 Al および Al 合金の溶接」 溶接界, 10, 1, p. 2~7 (1958. 1)

◇教授 高橋武雄 「欧州における分析化学の現況」 分析化学, 7, 53~60 (1958. 1)

☆生研所員海外渡航状況☆

◇第 1 部 岡本舜三教授は、去る 1 月 10 日羽田発渡比したが、2 月 10 日に帰京する。

◇第 5 部 坪井善勝教授は、昨年 12 月 21 日羽田発渡

印したが、2 月 12 日に帰京する。

◇第 5 部 鶴岡研究員は、港湾視察のため、ブラジル・アメリカ等へ約 1 ヶ月の予定で 2 月 15 日出発する予定。

☆K 122S と π ロケットの飛しょう☆

昭和 32 年度第 5 次実験として観測ロケットカップ K 122S 型 2 号機が、33 年 2 月 10 日秋田県道川で打揚げられた。今度のロケットは、さきに 12 月打揚げたロケットと同型であるが、テレメータ系に特に改造を加えたものである。秋田の厳冬に際会して、積雪、強風が心配されたが、実際は歴年にも珍しい温かさのおかげで、32 年 12 月の時の実験よりもむしろ恵まれた天候の助けがあった。ロケットは正常に飛しょうし、テレメータは、全飛跡を追跡することができた。しかし、発射を予定 60 秒前に行ったため、レーダの一部は、測定できずに終わった。

ロタン用ロケットとして登場の予定のパイ型ロケットの地上発射テストは、カップ・ロケットの実験と同じく、秋田で行われた。パイ・ロケット・エンジンは、糸川教授の創意研究による新型種で、その実用化を日本冶金工業 KK が担当開発しつつあるもので、ロケットは 2 機実験され、2 月 12 日、雨中 30°, 21° の発射角度で打揚げられた。2 号機の飛しょうは、不十分であったため、本観測以前にさらにパイ・ロケットの地上発射実験を行うことになった。

IIS NEWS

筆 者 紹 介

- ◇斎藤 成文 教授 工博 専攻 応用電子工学
 ◇永井 芳男 教授 工博 専攻 有機合成化学・高分子化学
 ◇剣持 寛人 大学院学生 専攻 有機合成化学
 ◇渡辺 勝 助教授 専攻 応用数学(微分解析機)
 ◇安達 芳夫 助教授 専攻 電子管工学

- ◇新井 義男 千葉工大学生
 ◇渡部 弘之 技術員 専攻 電気工学
 ◇金森研究室
 生野 正和 技術員 専攻 鉄鋼製錬工学
 ◇竹中 規雄 教授 工博 専攻 切削工学
 ◇吉弘 芳郎 助手 専攻 糖化学
 ◇中村 亦夫 助教授 専攻 糖化学・醱酵化学

編 集 委 員
 編集委員長 渡辺 要
 編集委員 森 犬吉郎
 小瀬輝次
 *小川正義

編 集 委 員
 田宮 真
 石原智男
 野村民也
 黒川兼行
 *金森九郎

編 集 委 員
 野崎 弘
 原善四郎
 関野 克
 久保慶三郎
 専門委員 星野昌一
 編集幹事 下村潤二郎
 編 集 室 水野晴明
 *印当番委員

第10巻 第2号

生 産 研 究

1958 年 2 月 1 日 発行

(本誌は生産技術研究所の研究紀)

介誌として、毎月1回発行する)

頒 価 60 円

編 集 者
発 行 者渡 辺 要
谷 安 正印 刷 者
発 行 所三美印刷株式会社
東京都千代田区神田多町2の7
東京大学生産技術研究所
千葉県市川市生町1
電話千葉(2)0261(代表)